

# 牛の休息行動とストール設計について

2019年7月17日

牛のストール上での休息行動（寝る・立ち上がる・立ち留まる）はストールの構造に大きく影響を受けます。牛の体に対してストールの設計が大き過ぎたり小さ過ぎたりすると、寝起きが悪くなったり、乳房炎や蹄病のリスクも高まってしまいます。今回は、ストールのサイズが牛の体に合っていなかった場合、具体的にどのようなリスクにつながるのかを簡単に説明します。

## ストールが小さ過ぎる場合

牛の1回の横臥時間は1～2時間程度で、1日に10回程度、寝起きを繰り返します。牛は立ち上がり始める時、前膝を立てて頭を前方に伸ばし、後ろ足で腰を持ち上げます。この時、頭を出すスペース(ヘッドスペース)が十分に無いと頭出しが制限され、起立が困難になり、場合によっては滑って転び、思わぬ事故を招いてしまいます。

また、フリーストールでしばしばみられるパーチング(後ろ足をストールから下ろして起立している)姿勢は、牛が牛床を狭く感じている証拠であり、これによって後ろ足の蹄が必要以上に汚れ、蹄病のリスクが高まります〈写真①〉。

逆にタイストールでは起立時に前方に出すぎて、飼槽に前足を出してしまうようになります。飼槽は滑りやすいので、これもやはり転倒のリスクにつながります。



写真①

## ストールが大き過ぎる場合

ストールが長すぎると糞や尿をする際に、尿溝やストール外に排泄されず、ストール上に落ちてしまいます。その上にまた寝ると、尻尾や乳房を直接汚してしまい、乳房炎のリスクが高まってしまいます。

横幅が広すぎても同じです。幅が広いと牛は左右にお尻を向けて起立したり、斜めに寝てしまったりするので〈写真②〉、結局ストール上に排泄してしまい、同じような結果を招いてしまいます。



写真②

## 牛は快適そうですか？

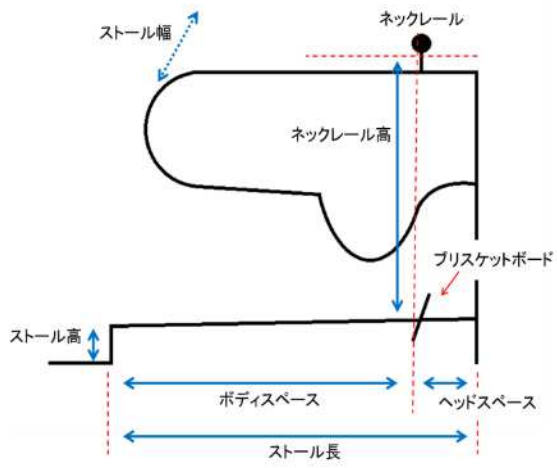
ストールの設計はストールの長さや幅だけでなく、ネックレール、ブリスケットボード、仕切り柵の位置、あるいは敷料などによっても左右されます。

ご自宅の牛群を見て、休息行動に何か違和感を覚えたら、牛の体に適したストール設計になっているか、ぜひ確認してみてください。

	寸法	備考
ストール長	240~250 cm	ボディおよびヘッドスペース含む
ストール幅	120~130 cm	腰角幅の2倍程度必要
ストール高	20~30 cm	スクレイパー設置牛舎は高めに設置
ボディスペース	170~175 cm	
ヘッドスペース	45~85 cm	頭突出しスペースを含む場合は長めに設置
ネックレール高	110~120 cm	ストール床面から測って
ネックレール位置	165~175 cm	ストールの後端から測って
ブリスケットボード位置	165~175 cm	ネックレール位置に準ずる

推奨されるストールの設計

(フリーストール、体重600kg程度の親牛の場合：参考値)



ストール設計 (参考)